

令和6年度三豊市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会要旨

1) 日時

日時：令和7年1月14日（火）午後1時30分から午後4時00分

2) 出席者

委 員）原委員、池田委員、岡根委員、永田委員、岩本仁委員、
安藤委員、増田委員、西原委員、前川委員（委員計9名）
事 務 局）竹田政策調整官、荒脇地域戦略課長、関地域戦略課課長補佐、
三録主任

3) 議題

- 1 第3期三豊市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン（素案）について
- 2 第3期三豊市まち・ひと・しごと創生総合戦略（素案）について

4) 配布資料

（資料1）第3期三豊市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン（素案）

（資料2）第3期三豊市まち・ひと・しごと創生総合戦略（素案）

（資料3）パブリックコメント（意見公募）の実施について

【参考資料】地方創生2.0の「基本的な考え方」

【参考資料】地方創生2.0の「基本的な考え方」（概要）

5) 会議要旨

(原委員長)

議題1「第3期三豊市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン(素案)」について、事務局より説明をお願いします。

(事務局)

資料に沿って、「第3期三豊市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン(素案)」について説明

(原委員長)

理論上、団塊の世代など高齢者の増加から今後、死亡数の増加により、若年層との人口構造のバランスが改善していくことが考えられるが、現在のところ三豊市では現れていない。

多様な価値観を尊重する反面、結婚、出産を希望しない女性の割合が増えていることについては、どのようにして地域活性化していくか議論する上で重要な課題である。

人口ビジョンについては、人口増加を目指さないといけないのかという考え方がある。高度経済成長の時代の方が特殊な時代であって、その地域の持っている能力に合わせて安定的に地域を維持していく考え方もある。それらを含めてどういう地域社会にするか皆さんの意見をいただきたい。

(前川委員)

確認になるが、原委員長の意見は、高度経済成長期の人口増加は特殊なケースであったということ踏まえて、これからの地域社会の在り方を模索するということが重要であるという認識で間違いはないか。それであれば、ある程度人口減少が続くことを前提として持続可能な社会を作っていく必要性について議論することも考えられる、という理解でよろしいか。

(原委員長)

基本的にはそう。人口増加が実現できればよいが、全国の自治体が人口増加を目指すと、日本全体で増えないことにはゼロサムゲームになる。日本社会は、欧米に比較すると外国からの人口流入に消極的である。人口増加でなくとも、それぞれの地域がそれぞれの実情に応じた望ましいものを推進するという方向性の議論もあり得る。もちろん、その中でも敢えて人口増を考える手もある。この後のキーワードに関係人口があるが、必ずしも住民票を移して居を構えてもらわなくても、その地域のファンになってもらい、頻繁に訪問してくれる方がたくさんいるとすればその地域は活性化する。

(前川委員)

第3期三豊市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン(素案)について：3. まとめの部分でデジタル技術の活用とあるが、三豊市としての方向性を決めるためにもデジタルを活用した成功事例などの具体的な例を資料として入れるのはいかがか。一般の人にデジタル産業の重要性を説くにはデータが不足している。選ばれるまちになるには順序があり、例えば若い人なら職業選択の際にデジタル産業を選択し、そこで三豊市を選んで移住するなどという流れになると

思う。

(事務局)

今回の総合戦略は、元々、地方創生の名の下に、前岸田政権下で進められてきたデジタル田園都市国家構想の考えに基づき作成しており、前段である人口ビジョンにおいてもデジタル技術の利活用の要素は入れておくべきと考えている。国の方針であるデジタルの重要性を認識しつつも、本市の人口減少の抑制のためには、社会増を念頭に置いて、20代30代を主なターゲットとして、雇用条件だけでなく多様なライフスタイル全体について考えていかなければならないというのが人口ビジョンを通して見えた課題である。全国においてデジタル技術の利活用についていろいろな分野の優良事例がある中で、どれを選択すべきか選定が困難なこともあり、この人口ビジョンを基礎資料として、総合戦略において、様々なデジタルに関する本市の取組を掲載していく想定としている。

(前川委員)

この人口ビジョンは、総合戦略の大前提となる資料であり、市民に対する説明のためにも、なぜデジタル技術の利活用なのかについては疑問が出ないようにするべきである。国の方針に基づき、デジタル技術の利活用について触れるという点は理解できるが、若い世代に選ばれるまちにするための1つの手段としてのデジタル、ということが分かるようにまとめるべきである。

(事務局)

意見の趣旨について理解した。修正を検討する。

(原委員長)

他に意見がなければ、議題2「第3期三豊市まち・ひと・しごと創生総合戦略（素案）」について、事務局より説明願う。

(事務局)

資料2に沿って、「第3期三豊市まち・ひと・しごと創生総合戦略（素案）」について説明

(原委員長)

ただいま説明があった総合戦略（素案）について各委員から意見を伺う。

(前川委員)

第2次三豊市総合計画後期基本計画の重点プロジェクトの取組に、ツールとしてデジタル技術を活用した取組を追加したものという認識であるが、素案に掲載されている取組のうち、後者はどれか。

(事務局)

資料を基に説明

(西原委員)

地域ビジョンとして「みとよでカナエル」、「みとよでハジメル」、「みとよでスマイル」、「みとよでツナガル」を掲げているが、個々のK P Iを達成することによって、その先の地域ビジョンを実現していけるのか、K P Iが達成されることと地域ビジョンのつながりがイメージしにくい。

(事務局)

総合戦略としてまとめたときに一貫性がないというご指摘はもつともである。しかし4年後、総合計画と一体的に改訂する予定としているため、そちらとの整合性という点で、別のK P Iを設定していくのはいかななものかというところで、K P Iについても総合計画と同じものを設定している。

(永田委員)

具体的な意見になるが、教職員の資質向上、I C Tを活用した授業については、子どもが主体のアクティブラーニングへと三豊市の教育が変わってきていることを実感している。一人ひとりを大切に、取りこぼさない授業改善を行っている点で、県下において特に三豊市は教育内容の向上が進んでいると感じている。“自発的に”、“子ども自身が”という言葉盛り込んでいただきたい。

(岡根委員)

農業委員会の立場でいうと、学校給食においても地産地消をやっているが継続性がない。栄養士の考える地産地消と農家の考える地産地消にギャップがある。

(池田委員)

「漁業従事者の確保・育成」について、かつては魚の種類も豊富で高値で売れていた。今は流通が課題で、それによって魚の値段が高騰するため魚食文化が衰退しつつある。

K P Iに設定されている漁業従事者については、今は正組合が3分の1ほどしかおらず、準組合がほとんどを占めている。

地域活動については、自治会長をしている立場として、移住してきた人の自治会加入への意識が希薄であると感じる。ゴミ問題が自治会においては多いので、その部分を加味してもらったらいいと思う。

(岩本委員)

目標③みとよでスマイルに災害に強いまちづくりを目指すところがあるが、実際に市がどのように災害に強いまちづくりを進めているのかは、地域の住民からも聞かれるところであり、不安がある。

中学生の尿中ピロリ菌検査を行い、子どもの段階からがん予防を進めていることは初めて知った。いつから始めた取組か。

介護を必要としない65歳以上の高齢者の割合が2022年から2028年にかけて上がって

いるが、高齢者の割合自体が上がっていくのかが疑問。

中山間、離島において医師不足が懸念される中で、オンライン診療について実現される予定があるか。実現されれば有意義なこと。

(安藤委員)

新規の就業者、三豊市内の新規の起業者の数字をK P Iに入れていただけるとよい。仕事がないければ生活できないが、大手企業でも人材不足に悩んでいる。数字があれば、市内で就職した人、就業した人がどのくらいいれば市が維持していけるか分かると思うので、16 ページの企業立地支援の充実の部分にK P Iを入れていただけたら。

(増田委員)

目標とK P Iの関連性が分かりづらいので、見せ方の問題かもしれないが、市民の方に分かりやすいようにしていただきたい。確認になるが、数値目標の設定について、それを最終目標としてまずあって、それに向かう方向性としてのK P Iという認識でいたので、順番が傾倒しているので分かりづらいというところがあるのではないか。

また、専門用語についての用語集が欲しい。

(原委員長)

複数の目標に跨る取組を分かりやすくしてほしい。例えば人口推計でも重要な層である高校生に対しての取組は、目標①の学びにも関係するし、目標③の産業振興、ビジネスにも関わってくる。総合戦略は担当課を超えてどういう風に地域を活性化していくかを考えるものだと思うので、特にこれからの地域の担い手として期待したい高校生に伝えるメッセージも欲しいところである。

(事務局)

先ほどの委員からの質問について回答させていただく。

永田委員よりいただいた、子ども自身が、といった言葉については追記の方向で検討させていただく。

岡根委員からの農業と給食の地産地消に関する意見については、総合戦略の計画書においてはここまでの記載にとどめておき、実地で取り組む段階において、具体的により掘り下げた内容を考えていきたい。

池田委員より、漁業者の育成について正会員、準会員の話もあったが、計画書では漁協からいただいた数値を基にここまでの記載とし、実際に国の交付金を活用して取り組む際には、より掘り下げた内容を検討したい。

自治会の加入については、加入促進はしているが伸び悩んでいる。ゴミ出しのルールについても池田委員の近隣だけでなく三豊市全体としても同じような傾向がある。今後、地方創生推進交付金事業として取り組んでいく際には、より掘り下げた内容で表記できればと思っている。

岩本委員のご質問にお答えする。自主防災組織について、町ごとで言えば 100%の組成率、また 100%に近い地区もあるが、豊中町、仁尾町、財田町の組成率が低い。有事の際には、行政がなんとかしてくれるだろうという考えが根強く残っており、本当に災害に強いまちづくりが

できているかといえば、まだまだ弱い地域が残っている。

ピロリ菌の取組については、平成 30 年度から取り組んでいる。

オンライン診療については、離島で実施できる体制の構築に向けて取り組んでいるところである。

安藤委員からご意見のあった、新規就業者数の K P I の設定については、事務局で検討する。

増田委員、西原委員からの目標と K P I の関連性が分かりにくいという点については、再度事務局側で検討する。

専門用語については、注釈を付けることを想定している。

K P I、数値目標の関係については増田委員のおっしゃる通りだが、総合計画の K P I を総合戦略の K P I に流用したことでこのような状態になっている。先に申し上げたが、まち・ひと・しごと創生総合戦略は、国の地方創生推進交付金の採択を受けるために必要な計画書であり、総合計画との整合性をとるため総合計画の K P I を集約している。そこから代表的なものを数値目標として採用したいというのが事務局の考えである。

岩本委員からの質問、65 歳以上人口の割合については、人口ビジョンの 13 ページ、国立社会保障・人口問題研究所の数値として、今後減ってくるという推計が出ているが、総人口も減っていくので高齢化率が高まっていると想定している。

委員長から意見のあった高校生、大学生、MA i Z Mについても修正を検討したい。

(原委員長)

続いて検討中となっている数値目標について、委員の皆さまの意見を基に決定していきたい。事務局からの説明にあったとおり、K P I の中から最もふさわしいものを委員によりお選びいただくことでいかがか。

(増田委員)

他市の例でいうと K G I (Key Goal Indicator : 重要目標達成指標) という指標を用いて、それぞれの施策について設定するのではなく、推計人口、年少人口、生産年齢人口など包括的な数値目標を定め、施策レベルで K P I を定めているところもある。

(事務局)

2 ページ三角形の構成の部分でも記載しているように、総合戦略の構成として、目標ごとに数値目標を置いて、その中で細分化された施策、K P I を定めるというのが国の方針で示されており、それに倣って計画書を作りたいというのが事務局の考え。

(前川委員)

数値目標とはどういう性質のものか。

(事務局)

これから検討していただく数値目標とは、例えば 7 ページ目標①ならば、「子どもの健やかな育ちと市民の学びの創出により未来の可能性を担保します」というキーワードに対し、具体的取組に設定している K P I の中から、適切なものがあれば、それを数値目標として設定するこ

とを想定している。あるいは委員の皆さんから別のものを設定するのが適切という意見があれば、別途設定することも考えられる。

(前川委員)

目標の中で取組が多岐に渡っているが、総合的な数値目標とはどのようなものを想定しているか。

(事務局)

20 ページ目標④みとよでツナガル〜集いとにぎわい〜でいうと、「市内外を問わずもっと三豊を知ってもらって好きになってもらい、にぎわいの創出に繋がります」という目標を立てている。その下には観光入込客数、外国人宿泊数などK P Iがいろいろあるが、その中から数値目標として設定するとすれば、＜社会増減数±0人＞を使えるのではないかと考えている。ただし委員の意見として更に良いものがあれば、そちらを採用することもあり得る。

(原委員長)

目標④でいうと観光、交流、移住定住、地域コミュニティがテーマとなっており、これらを総合した数値目標を設定するということだが、総合的に何を数値目標とするのかは悩ましいところで、どのあたりに力点を置くかという考え方の選択が必要になる。方向性、何を重視するのかという価値観に関わる重い議論になり、皆さんで考えて意見を出さなければならないと思う。

(前川委員)

話し合うにあたって、市としての方向性、たたき台があった上で委員が議論の方がやりやすい。

(原委員長)

現時点で事務局の方で、何か検討している方向性、選択肢はあるか。

(事務局)

まだ検討中のため、本日の会議でご意見をいただく想定であった。今日の段階でお答えすることができない。

(原委員長)

観光にしても量的に観光客を増やせばいいのかという議論があり、地域の伝統、良さを本当に理解し評価している人に来てもらうというように、質を重視するという方向性もあり得る。何を目指すのかという方向性を決めて議論してはどうか。

(事務局)

委員の方において方向性についてイメージできるものがあって、意見があれば事務局のたたき台の参考にする。

(前川委員)

市としての考えがあった上で委員が意見を出す方が、委員それぞれの経験も踏まえて話がしやすい。策定の期限がある中でゼロからするのは難しいと思うが、市民にとって分かりやすいものになればと思う。

(事務局)

いただいた意見を基に、事務局で総合戦略（素案）を修正し、数値目標については次回に持ち越す。委員長、それでよろしいか。

(原委員長)

それでよい。

(事務局)

議題3「パブリックコメントについて」は次回の議題にさせていただきたい

(原委員長)

承知した。それでは議題3は次回の協議事項とする。他に委員の皆さまから何か意見があれば発言をお願いしたいが、いかがか。

(委員)

意見無し

(原委員長)

それでは意見が無いということなので、本日の会議は以上とする。事務局に進行をお返しする。

(事務局)

ご審議いただいた意見を基に、素案の修正等を行い、次回の会議の議題とさせていただく。

以上